



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈りに参加
5. 聖書研究・家庭集会への参加
6. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 ユービー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈祷会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 宰 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「榎本保郎牧師」

『アシユラム』(二〇一四年九月号)に榎本保郎牧師の未亡人、和子師の手記が載った。「七月二十七日」という題だ。保郎師の命日(一九七七年)である。「よくアシユラムで、「榎本先生はどうして自分の身体をもっと大切にされなかったのですか」と問われるのですが、その度に、「主人は神様の聖言に迫られると自分の身体が悪いことを持ち出せない人でした」と答えておりました。血清肝炎が肝硬変に進み、召天した年の三月には半ば強制的に一ヶ月検査入院をしましたが、結果は安静にしなれば生命の保証はないということでした。足が腫れ、階段をはって二階の寝室にあがるようになり、遺書となった旧約聖書一日一章の原稿は、寝床の上に腹ばいになって書いておりました。それでも頼まればどこにでも伝道に出かけていきましたが、肉体はボロボロでした。一九七七年七月、ブラジルから榎本に、「ぜひ伝道にきてほしい」という招請がありました。『行けそうにない、この身体では…』と、さすがの榎本もためらってという再度の要請に、『行きとやない…しかし、主が行けと言われるのか…』と祈り、悩み、祈った末、ついにブラジルに渡る決心をいたしました。出発の朝、センターの前庭で、『主よ、これからいよいよ出発します。み心でしたら、再びこの地に帰して下さい。アーメン』と祈って出かけましたが、翌日の夕方、太平洋上の機中で、静脈瘤破裂のために血を吐いて倒れ、二週間後には、ロサンゼルス病院で、主の御許に召されて行きました。センターの集会室には今も「主の用なり」という額がかかっておりますが、一日の初めに主の聖前に出て聖言を聴き、聴いた聖言に従いきれない自分の弱さに悶え苦しんで、幾度泣いたことでしょうか。今年もまもなく七月二十七日が巡ってきます」

(主の用なり)とは、マタイ伝の「主がお入り用なのです」(二一・3)の文語訳で、誰も乗ったことのない子ロバをも主は必要としていくとの意味である。でも、なぜ重病の先生を主は海外に送られたのかと問いたくなる。ロサンゼルスで看護に当たっていた家族は召天時に、病室の片隅で「ジョン・シュン」という異様な音を聞き、まばゆく輝く光茫がベッドに広がり、点滴の壺に当たってカチツと音がし、妻の頭上に小鳥が羽ばたくように明滅するのを見ている。それは主が天国の存在の確かさを遺族に見せるためであり、彼の振り絞るような地上での最後の主の用だったのであるまいか。あたら五十二歳の若さであった。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

